

佳作

リオオリンピックを見て学んだこと

福島県二本松市立杉田小学校二年 小林 昊大

「こう大、いつになったらしゅくだいやるの！夏休みはあと少しでおわるんだよ！」

八月も半分すぎたが、ぼくはたしかにしゅくだいがおわっていない。

うるさいなあ、はあー。母さんのこえは頭からひびくんだよ。

ぼくは、あまり「どりよく」がすきではない。学校のべんきようは、何となく分かるし、それに、友だちとあそんだり、ゲームをしたり、マンガを読んでいる方がすごく楽しい。

なかなか、のこっているしゅくだいに手がつかないまま、家ぞくでのりょこうもおわって帰ってきたあさ、テレビでリオオリンピックのレスリング女子、吉田沙保里せんしゅがけっしょうでまけて、ぎんメダルになったところを見た。ゆかに頭をつけてたく

さんないていた。ぼくは、まけたんだからなくのはあたり前だと思って見ていたら、母さんも、となりでないでいた。びっくりした。

「母さん、何でないでいるの？」

「母さんは、学生のころスポーツをやっていて、まい日いっしょうけんめいがんばってつらいれんしゅをかさねてつよくなつた人しかこういうばしよに立てないことをしているし、それを吉田さんは四回もおなじオリンピックのぶたいに立ちつづけたんだよ。今回は、金メダルはとれなかったけど、今までどりよくした、かの女のことを、だれもわるく言う人はいないし、かんどうしてなみだはしぜんに出るんだよ。」

そうかあ、がんばっているすがたは、人をかんどうさせるんだなあ。

テレビではまた、吉田さんがインタビュをうけながら日本のみんなにあやまっていたけど、ぼくは、さいしよと見方がかわって、

あやまることないよ、すごいよ。

と、おうえんする気もちになっていた。

今回のリオオリンピックで、ぼくは、どりよくははずかしいことではなく、しつづけることでけっか

につながることに、けっかがなくても、そのすがたは人にかんどうさせることもあるのをしった。ぼくもいつか、人をかんどうさせるがわになってみたい。今はまだ、どりよくもにがてだし、友だちとあそぶじかんもだいじだけど、少しずつ気もちをかえてがんばれることをふやしていこうと思う。

よし、夏休みのしゅくだい、おわらせよう。